

DBSオムロン基金 2024年度秋学期公開セミナー

研究プロジェクト：京都の伝統工芸職人の暗黙知・身体知の言語化についての質的研究

匠の技はどこまで言語化可能か

PART 1

質的研究とは何か？

GO ON DBSのご紹介

伝統工芸職人の暗黙知と身体知とは？

言語化の可能性とその限界について

GO ON DBSの工藝理論と実践コースについて

2024年12月12日 (木)

18:00～20:00

(17:00 開場)

同志社大学 寒梅館 211

講師紹介

中川周士 中川木工芸比良工房 主宰

小菅達之 株式会社公長齋小菅 代表取締役

八木隆裕 株式会社開化堂 代表取締役

辻 徹 金網つじ 代表取締役

松林豊斎 朝日焼十六世窯元

細尾真孝 株式会社細尾 代表取締役

崔 裕眞 同志社大学大学院ビジネス研究科 教授

京都はハイテク産業と共生する老舗と伝統産業で世界的に知られた古都であり、同志社大学も常に地域経済の重要な主役として様々な産学連携に取り組んできました。伝統工芸の世界で培われた職人たちの技術と知識は、文章化される場合もありますが、主に口伝や体験によって代々受け継がれてきています。しかし、それを言語化し、次世代へと伝えるにはどのような方法があるのでしょうか。また、この新たな言語化への試みは、いかに新しいビジネス機会を創出するのでしょうか。

本セミナーでは、国内外で大活躍中の工芸職人・事業経営者6名と、同志社大学大学院ビジネス研究科教授 崔 裕眞を講師とし、京都の伝統工芸職人の経験と知恵を言語化するための日々の工房・作業場・展示会や販売現場での生の体験とケースを学習します。続く合同トークセッションでは、「匠の技」の本質と特性、今後のさらなる可能性について講師とともに考察する機会を提供します。奮ってご参加ください。